

## 4000万人の頭痛

82

## 頭痛にまつわる都市伝説

第2回 〈頭痛持ちの女性は美人が多い?〉

文 清水俊彦

text by Toshiko Shimizu

何となく、頭痛持ちの女性は美人が多いのではないかと頭痛診療に携わる我々の仲間の間で長年にわたり、囁かれ続けています。

確かに、以前は頭痛で病院を訪れる人は少なく、何となく我慢したり、また市販の頭痛薬で対処していた患者さんが多く、頭痛で吐いたり、寝込んだりするような余程の酷い患者様以外は医療機関を受診しなかったのです。しかし30年以上前に大学病院で頭痛外来を開設した当初から、脳神経外科の同僚医師たちから、何故に私の外来には若い女性がそんなにたくさん受診するのかと問いかけられることが多かったのです。

確かに脳神経外科の外来といえは、脳卒中の患者様が圧倒的に多く、その疾患の性質からどちらかといえば中高年齢の患者様が多く受診される傾向にあります。そんな中で私の頭痛外来を受診するために診察室前で待っている若い女性患者様達は、待合室で際立っていたのかもしれない。

本邦で多いとされている慢性頭痛の二大頭痛といえは、片頭痛と緊張型頭痛なのですが、緊張型頭痛の場合は、

痛み以外の症状に乏しく、痛いけれども市販の頭痛薬を服用すれば、仕事や日常生活に支障をきたすことが少なく、従って医療機関を受診される頭痛患者様の大多数が、特に若い女性に多いとされている片頭痛に悩む患者様なのです。片頭痛はその痛みの水面下で脳の異常な過敏状態をきたす疾患で、痛み以外に嘔気や嘔吐があり、光や音、もしくは匂いなどに過敏に反応して頭痛が悪化し、しかもこの過敏症状は一度起こると2〜3日続き寝込むことが多いため、市販の頭痛薬での対処には限界があるのです。

また脳血管内でのセロトニンという神経伝達物質の不安定な状態が頭痛発作の誘因となるのですが、このセロトニンは女性ホルモンであるエストロゲンとその基本構造が近似しているため、エストロジェンの不安定になりがちな月経前後や排卵日前後になると連動して脳血管内のセロトニンも不安定な増減を繰り返すため、酷い頭痛発作が起こりやすくとされているのです。

光過敏のためか、初診で受診される酷い片頭痛の女性患者様は何となく眩しそうな顔つきからか、クールな目尻

になりがちで、さらには長年の繰り返す異常な脳の過敏性のためか、どちらかといえは、凛とした聡明な女性が多いことも相俟って、頭痛に悩む女性には美人が多いとの都市伝説が生じたものと想像されます。

## Profile

日本脳神経外科学会認定医、日本頭痛学会監事を歴任。日本頭痛学会認定専門医。東京女子医科大学病院脳神経センター頭痛外来客員教授、獨協医科大学神経内科学講座臨床准教授、一般社団法人グリーンケアパートナー理事。

ほかに、汐留シティセンターセントラルクリニック、阿見第一クリニック、小山すぎの木クリニック、マミーズクリニック、伊豆大島医療センターの頭痛外来を担当。

昭和61年3月日本医科大学卒業。学会活動をはじめ、NHK「きょうの健康」「クローズアップ現代」など、テレビ出演も多い。「頭痛女子のトリセツ」(マガジンハウス)をはじめ、頭痛関連の著書多数。



新刊「マンガでわかる頭痛・めまい・耳鳴りの治し方」  
監修/清水俊彦 推薦/佐渡島庸平  
新紀元社 (1,080円(税込))販売中。

